



第 72 号

編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
Eメール info.koryuji@gmail.com
責任者 鴨井 智峯

新年のお慶び申し上げます。

高龍寺 院家

写真は国宝「御請来目録」です。これはお大師様（空海）が唐から帰られた時に朝廷に提出した物で、内容は入唐した理由と二十年の年限を破り二年で帰国したことは死罪に値するものだけれど、これだけの物を日本に持ち帰れた喜びは死を持ってでも有難い事であるという内容が序文に書かれ、以下は持ち帰った膨大な經典仏像仏具曼荼羅などの目録が記されています。

ここで興味深い事は、この目録はお大師様筆では無く、天台宗を開かれた最澄筆ということです。最澄様という方は今で言えば大変なエリートの方で比叡山を日本の仏教の総合大学にしたかったと言われています。ですから空海様が持ち帰った完璧な密教のテキストがどうしても必要でした。以降二人の関係が続きますが、それは永久という事ではありませんでした。

最澄様は法華浄土禪等に並んで密教があると考え、空海様は密教以外は全部一括りと考え、これに於いて二人の天才は妥協することはありませんでした。

歴史の面白いところは、最澄様が写した物であれば比叡山にあるべき所ですが、室町時代初期に比叡山から東寺に奉納されています。もし比叡山にあったままなら戦国時代に信長によって全て焼失していました。お大師様が命懸けで持ち帰った全貌や二人の天才の関係を考えると、「御請来目録」は素晴らしい国の宝です。



合掌



高龍寺カレンダーの配布

腰塚勝也住職（埼玉県久喜市 遍照院）が作画された令和 7 年度の高龍寺カレンダーが完成いたしました。

今年は上に金剛界大日如来。その周りには梵字で光明真言が記され、下には胎藏界大日如来が描かれ五色の光に包まれて「光明真言曼荼羅」となります。

お寺で先着 300 枚配布いたしますので、ご希望の方はお寺にお越しください。



駐車場が完成しました

遺贈の熊野スズ様の基金により、山門横の隣地 256 坪が駐車場になり、併せて駐車場と境内の高低差 5m 幅 55m に石垣を築く境内整備が完成いたしました。

長年の懸案だった駐車場不足の問題が解決し大変嬉しく思っております。ぜひ、ご利用ください。



台湾寺院巡礼のご案内

瀬戸内霊場会信仰と観光の旅。

御室派を中心としたお寺のネットワークで毎年アジアを旅し、令和 7 年には台湾の旅となりました。僧侶 8 名が引率し特別な信仰と観光の旅に参ります。予定では台北での有名な観光地九份や、日本統治時代に日本人が建立し戦後は台湾の方達が守って下さっている慶修院などを参拝予定です。参加または興味のある方はお寺までご連絡下さい。期日令和 7 年 6 月 9 日～13 日です。

写真は令和 6 年にお参りしたインドネシアの密教金剛頂経の聖地ボロブドゥール遺跡です。

般若心経について

高龍寺副住職 鴨井悠真

お経という言葉聞いて、般若心経を想像される方は多いかと思います。

普段はあまりお寺に縁のない生活をされている方でも、般若心経を聞いた事がないという方はいらっしゃるだろうと思います。

それでは、般若心経とはどういったお経なのでしょう。

般若心経を研究している人によっても、色々と解釈は異なりますが、一説では執着について説いたものだと言われております。

これは仏教でよく執着について使われる例えなのですが、目の前に泥で真っ黒な川があるとします。

大抵の方はその川を見て汚いと感じると思われるのですが、それはきれいな川を知っているからこそ、泥だらけの川を見て汚いと感じる事ができるのです。

生まれた時からその川しか知らなければ、泥だらけの川を見ても汚いと感じることはないのです。

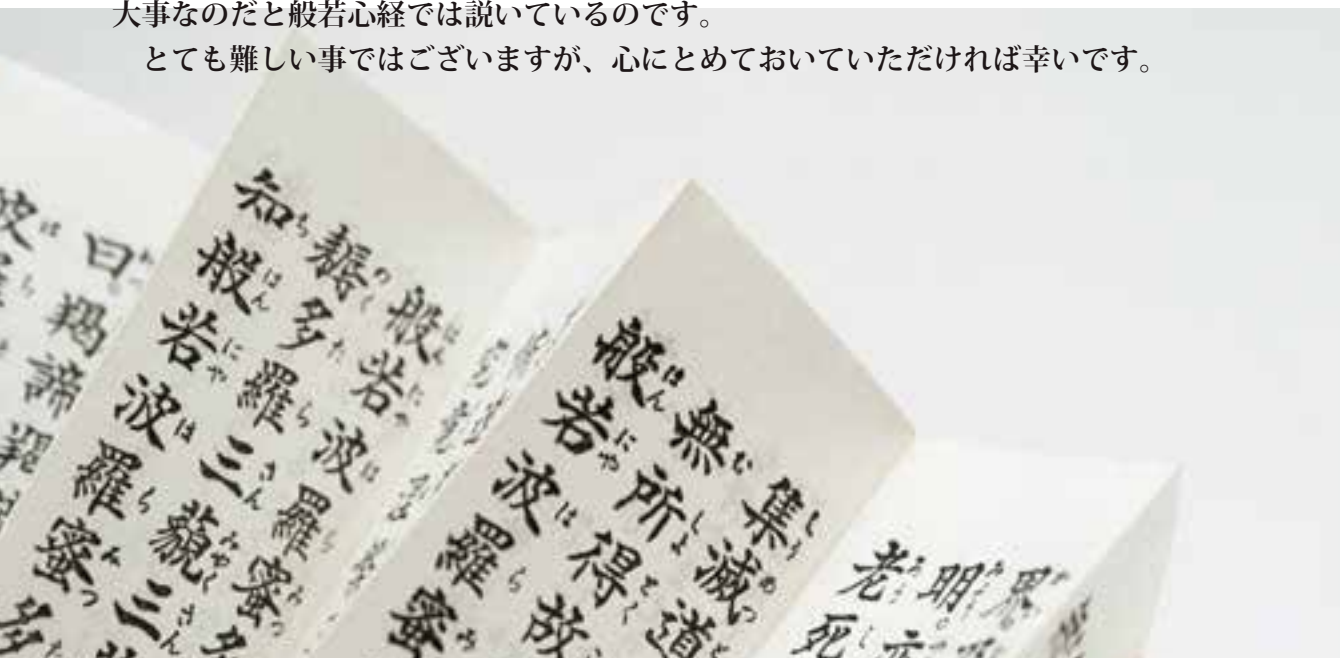
このようにきれいや汚い、多いや少ないといったものは人間が主観で決めただけの事であり、それにこだわってはいけませんという事です。

しかし現実的な話として、泥水を飲むことはできません。こだわってはいけないのは当然なのですが、こだわらない事にこだわってもいけないのが難しいところなのです。

人それぞれで事情が違います。汚いやきれい、多いや少ないなどどの程度のものが適切なかは、その人によって異なります。

その適切なところを誰かに決めてもらうのではなく、自分で考えて自分で決めるのが大事なのだと般若心経では説いているのです。

とても難しい事ではございますが、心にとめておいていただければ幸いです。



小野龍光さんによるお話会報告

「人生の歩み方 ～感謝とご縁にあふれて生きるには～」

令和6年9月24日に小野龍光さんによるお話会「人生の歩み方 ～感謝とご縁にあふれて生きるには～」を開催いたしました。

思えば、龍光さんとの出会いも不思議なご縁から始まりました。

たまたま目にしたネットニュースで、日本のIT業界を牽引してきた人物が、インドでインド仏教1億5000万人の頂点に立つ日本出身の僧である佐々井秀嶺氏に出会い、地位も名誉もお金も捨てて出家したという事を知りました。

立派な方がいらっしゃるな！講演会があれば聞いてみたいなと思っていたところ、龍光さんが愛媛にお越しになる予定を知り、連絡を取ってみることにいたしました。その時は都合がつかず、お会いできず残念に思っていたところ、なんと今度は歩き遍路で四国八十八か所をお参りする予定があると知りました。私の実家は、四国八十八ヶ所三十八番札所として、またちょうどその時期に出産のために里帰りしておりましたので、念願が叶ってお会いすることができました。そして、今度は高龍寺にお越しくださいと約束を果たしたのが今回の機会でした。

他にも、龍光さんの御友人が仁和寺で得度されていたり、そのご友人を弟子として迎え入れた岡山県にあるお寺の住職が、副住職の修行時代の寮監督だったり、妹の義父である織田隆深住職（東京都 真成院）が佐々井秀嶺氏と深い交流があったりと、知れば知るほど不思議なご縁を感じております。

最後に、龍光さんのブログからの引用になりますが、心に響いた言葉を記します。

未来の結果につながる「縁」は、そのへんに常にゴロゴロたくさん転がっている。本人が全く気が付かずにやり過ごしているものもたくさんある。たまたま、「何かの縁で」、その要因（縁）が起きれば、後で出会う「結果」につながっていく。縁は、手を伸ばせばつかめるかもしれないけれど、常に見逃しているかもしれない、そのようなもの。人生というのは、ちょっとした小さき縁で実に大きく動いて巡り巡っていくもの。

龍光さんは、来年の島四国にもお坊さんと歩き歩き遍路の一員として参加されます。一緒に参加をご希望の方は、高龍寺までお知らせください。

